

授業科目 社会病理学

| | | | | |
|-----------------------|------|----|------|----|
| 【担当教員名】 寺田 貴美代 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 社会 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修選択 | 選択 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【カリキュラムポリシーとの関連性】

| | | | | |
|-------|-------|-------|----|-------|
| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
| ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ |

【一般目標：G10】

社会病理学は、さまざまな社会問題（児童虐待や高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス、自殺など）を対象とする学問であり、本講義では特にソーシャルワーカーになるために必要な知識を、他の科目で習得する社会福祉の知識に結びつけて理解することを目指す。そこでまず、基本的な社会病理学の考え方を理解した上で、近年注目されているいくつかのトピックを取り上げ、その実態や背景について考察する。また、学生自らが社会問題に関心を持ち、他の学生とコミュニケーションを図りながら問題意識を高める。

【行動目標：SBO】

1. 社会福祉分野に関する社会問題を理解し、考察する
2. 社会福祉の専門的な知識に根差した思考力や判断力を身につける
3. 社会問題や福祉社会の動向に関心を持ち、現代社会における課題をとらえる
4. さまざまな問題を抱える人々の多様な生き方や個性などについて理解する
5. 社会問題に対して自分なりの意見を持ち、他者とのコミュニケーションを図る

| 回数 | 授業計画・学習の主題 | SBO 番号 | 学習方法・学習課題 備考・担当教員 |
|----|------------------|-----------|----------------------|
| 1 | 社会福祉と社会問題（1） | 1, 2 | 講義 |
| 2 | 社会福祉と社会問題（2） | 1, 2 | 講義 |
| 3 | さまざまな社会問題を考える（1） | 1～3 | 講義 |
| 4 | さまざまな社会問題を考える（2） | 1～3 | 講義 |
| 5 | さまざまな社会問題を考える（3） | 1～3 | 講義 |
| 6 | さまざまな社会問題を考える（4） | 1～3 | 講義 |
| 7 | さまざまな社会問題を考える（5） | 1～3 | 講義 |
| 8 | 前半の総括 | 1～3 | 講義 |
| 9 | 新たな社会問題（1） | 3～5 | グループ学習 |
| 10 | 新たな社会問題（2） | 3～5 | グループ学習 |
| 11 | 新たな社会問題（3） | 3～5 | グループ学習 |
| 12 | 社会問題の検討・討議（1） | 3～5 | ディスカッション |
| 13 | 社会問題の検討・討議（2） | 3～5 | ディスカッション |
| 14 | 総括（1） | 2～4 | 講義 |
| 15 | 総括（2） | 2～4 | 講義 |

| | | | | |
|-------------------|---------------------|-------|-------|------------|
| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格 他> |
| 教科書 (必ず購入する書籍) | 特に指定しない（プリントを配布する）。 | | | |
| 参考書 | 適宜、授業にて資料を紹介する。 | | | |
| その他の資料 | | | | |

【評価方法】

1. 授業にて実施する課題の提出内容、2. 出席状況、3. 授業への参加度を総合して評価する。

【履修上の留意点】

講義を一方向的に聞くのではなく、他の学生と意見交換をする機会を設ける。そのため、授業へ積極的に参加する姿勢が必要であり、それをもとに授業への参加度を評価する。